

令和2年度 中野区小学校教育研究会理科研究部

1 研究主題

自然と向き合い、多様な考えを受け入れ主体的に問題を解決する理科学習

～これからの時代に求められる資質や能力を育む指導の工夫～

2 主題設定の理由

昨年度の中野区の学力調査の結果から、「流水の働き」、「土地のつくりと変化」、「火山と地震」、「植物の仲間」といった地球領域の内容について課題が残った。中野区では、人工的に手加えられた環境が多く広がり、自然にできた川や森林を普段から目にすることが難しく、実体験が不足し、理解が深まりにくいのではないかと考察する。

今年度は、学習指導要領改訂の1年目となった。学習指導要領には、「今、学校で学んでいる児童が、成人して社会で活躍する頃には、予測が困難な時代を迎える」とある。しかし、今年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、児童を取り巻く環境や生活様式が激変した。さらに、全国各地で長雨や台風などによる自然災害が多く発生し、地球温暖化の影響を肌で感じる事象が急増してきた。

上記の中野区における課題と、今後予想される社会の状況・情勢を鑑み、学習した事柄を知識として留めるだけでなく、状況に照らし合わせて学んだ知識を活用していくことのできる児童を育成したいと考える。学習指導要領に示された内容に着目しながら、教師の授業改善をより一層図っていくことを今年度の理科部の研究の中心に据え、研究主題を設定した。

3 研究の概要

教師が授業改善を行うにあたっての2つの視点

(1) 見方・考え方を働かせるために

領域ごとにおおよその見方・考え方は新学習指導要領に記載されている。その見方・考え方が具体的な場面ではどうすることか、本研究を通して探っていく。児童が見方・考え方を働かせた場合、どのような発言や思考の過程をたどるのかといったことを具体的に想像していく。そして、そのような発言や思考を引き出すためには、教師のどのような働きかけが必要であるかということを考え、授業を構築していく。今後は、領域ごとに示されている見方・考え方にとらわれることなくどのような見方・考え方がふさわしいのかについても吟味していく必要がある。

(2) 実生活に生かすために

昨今の世界状況を見渡すと、自然災害などで、今まで常識とされていたことが覆るような事象が多く見受けられる。そのような場面に遭遇した時、既習した内容や自分の体験を関係付けて新たな考えを生み出していくことが求められる。

本研究では、児童にとって身近なものを学習に取り入れ、実際の場面を想定して考えさせるようする。それによって、学習と生活とが結びついていることを実感させたい。このような経験を重ねることが、

学習を自ら実生活に生かそうという児童の姿に結びついていくものとする。特に、地球領域等では、地域に関わる教材も積極的に開発していくことを視野に入れていく。

4 年間の活動について（令和2年度・予定を含む）

① 9月16日（水） 研究計画・組織作り

② 10月14日（水） 日本科学未来館見学

③ 11月18日（水） 指導案検討

④ 12月 9日（水） 研究授業

上鷺宮小学校 5年 田中 隆夫教諭

単元名：流れる水の働き

講師：帝京平成大学 教授 船尾 聖 先生

⑤ 1月27日（水） 次年度に向けて

⑥ 2月10日（水） 実技研

講師：帝京平成大学 教授 船尾 聖 先生

⑦ 3月 3日（水） 年度のまとめ 実技研修など